



城南中だより

舞鶴市立城南中学校
令和6年3月1日発行
第13号 通算675号



<http://jonan-maizuru.edumap.jp/> TEL 75-0137

啓蟄の候



「冬ごもりを終えて昆虫やカエルたちが顔を出す季節」となりました。保護者・地域の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校教育の推進に格別のご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。またPTA本部役員並びに企画委員の皆様方には、1年間大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

本年度の登校日もあと10日あまりとなりました。

3月7日には公立高校中期選抜を控えています。そして、15日には卒業式を迎えます。全ての生徒が進路希望を実現して、素晴らしい4月を迎えるために万全の態勢で支えます。

確かな学び 心豊かに たくましく

先日、「ドンッ」という音とともに、一度きりでしたが下から突き上げるような揺れを感じました。2月14日に京都府南部で発生した地震は、M4.3で、舞鶴市では震度1でした。ちょうど授業中の本校の校舎では、階や棟によって揺れの感じ方が異なったようです。速やかに机の下に移動した学級もありましたがそうでない学級もありました。安全確認後、津波の心配の無いことなどと併せて全校放送で知らせて活動を再開しました。本校では、この1月にもブラインド型の避難訓練を実施したばかりです。生徒も教職員も緊張感を伴った実施となり、いつもにまして迅速に避難が完了しました。

いつ訪れるか予測のつかない災害に対して、日頃からの訓練や備えの大切さを改めて感じる機会になりました。

大きな「時代の転換期」をより良く正しく生きる

緊急事態宣言の発表に伴い文部科学省から全国一斉臨時休業措置要請が出されたのは4年前の2月28日（金）のことでした。新型感染症蔓延防止のため、我が国教育史上初の長期にわたる臨時休校開始までのわずかな準備期間をまえに、日本中の学校が緊迫感に包まれました。その後、学校教育活動が再開し With コロナの時代を迎えました。

様々な制約や徹底した感染防止等、凶らずも「常識」を見直し、「先々」を見通して備えることの大切さに脚光が当たりました。臨時休業措置期間は、義務教育の社会的価値・学校での ICT 活用等が改めて見直される契機になったと捉えられています。一連の困難な流れの中にもありながらも、ピンチをチャンスにと、力を蓄え前進しました。

かつてない厳しい環境のもとで、子どもたちが力を合わせて健やかに正しく生きるための知恵と工夫を磨き積み重ねてきた経験は、正に「生きる力」に直結する貴重な財産です。POST コロナのその先へ、一層目まぐるしく変化する社会をより良くたくましく生き、やがて次代に引き継ぐための大きな力となると信じています。

保護者・校区の皆様方におかれましては、くれぐれもお体を大切に、どうぞご自愛ください。

舞鶴市立城南中学校 校長 福本 浩介 教職員一同



より良い学校教育で、より良い社会をつくる